

宮本順三  
おまけ博物館  
(東大阪市)

.....64

みゅ〜  
ザ・見遊じあむ

近鉄「八戸ノ里」駅前ビルの3階にあります



ミュージアムメモ

▶所在地/東大阪市下小阪5-1-21山三エイトビル3F▶交通/近鉄奈良線「八戸ノ里」駅下車すぐ▶開館時間/土日10時~17時、火から木曜日は事前予約制▶休館日/月、金曜日、盆、年末年始、臨時休館日あり▶入場料/大人500円、学生300円、こども200円▶連絡先/電話・FAXとも06-6725-2545▶ホームページ/http://www.omakeya-zunzo.com/



世界中のミニ玩具がびっしり

懐かしい「グリコのおまけ」と  
世界の人形玩具が一堂に

「小さいことはいいいことだ」をモットーにしていた宮本氏は「小さなねずみが大きくなると子どもは喜びますが、大きな象が豆粒になるともっと喜びます」と

洋画家でグリコのおもちゃデザイナーとして活躍した宮本順三氏(1915~2004)。この博物館では、宮本氏が幼年期から生涯にわたって収集した日本各地の郷土玩具や世界の人形玩具、仮面などの民俗文化コレクションと、自らの作品(絵画、グリコのおま

け)を保存・展示しています。「小さいことはいいいことだ」をモットーにしていた宮本氏は「小さなねずみが大きくなると子どもは喜びますが、大きな象が豆粒になるともっと喜びます」と

ど歴代の「ミニおもちゃ」や、日本と世界各国の人形が一堂に並び、メルヘンチックなワールド空間をつくっています。

「ロビン・フッド」



弓の名手で森のヒーロー  
その名はロビン・フッド様

世界に知られた「ロビン・フッド物語」。今回は、「グランドイーター」のリドリ・スコット監督と、ラッセル・クロウ主演のコンビだけに、活劇のおもしろさは期待できそうです。

ただし、今回の作品は「ロビン・フッド誕生までの物語」のため従来とは違ったストーリー展開です。今回のストーリーを紹介すると...。12世紀末、ロビンは、イングリッド王・リチャードとともに十字軍の兵士としてフランスでの戦闘に加わっています。

映画の後半で描かれる、海岸でのイングリッド対フランス軍の大がかりな戦闘シーンは、さすがに「グランドイーター」のコンビだけに一大スペクタクル場面になっています。おもしろいのは恋人のマリアンが実は人妻だったという設定で、ケイト・ブランシェットが演じています。ヒーロー活劇の醍醐味をたっぷりとお楽しみください。

このシネマ ガラエイガ

大阪の戦跡を歩く

第63歩



ロシア兵墓地 (泉大津市)

明治37年(1904)から38年(1905)にかけて、多くのロシア兵が日露戦争で捕虜となり、日本各地に収容されました。大阪では高石市の海岸付近に造られた収容所に2万人が収容されました。ここで寂しく死んでいった兵

士のために、泉大津の市民が自分たちの墓地の一部を提供し、ロシア兵の墓地をつくりました。89基の墓石の横には、当時のロシア政府が建てた石碑があり、ロシア語など5カ国語で「御霊よ、安らかなれ」と刻まれています。

撰津  
河内 和泉 三國誌  
おおさか

河内 和泉

河口慧海と「西藏旅行記」  
日本人で初めて  
秘境のチベットに入国

64 (堺市)

生家の近くにある南海本線「七道」駅前に立つ慧海の像。チベットに向かう時の姿をしています



生家の跡地に立つ碑

河口慧海(1866~1945)は、世界有数の「秘境の地」と言われていたチベットに日本人で初めて入国し、仏教の原典をはじめ、チベットの文化、歴史、自然を広く国内外に伝えました。現在の堺市北旅籠町に生まれた慧海(幼名・定次郎)は、23歳で出家して仏教を学びました。当時、日本に伝承された仏典はすべて漢訳されたものでしたが、慧海は調べていくうちに、同じ仏典でも訳者によって内容が異なっていることに気がつきます。日本でわかりやすい仏典をつくらうとしていた慧海は、漢訳の元となった梵語やチベット語の原典を入手しよ

うとします。最初は仏教発祥の国であるインドで求めようとしたのですが、すでに仏教は衰退しており入手できませんでした。そこで慧海は、当時厳重な鎖国政策をとっていたチベットに入国することを決意します。隣国のネパールに出かけて情報を集め、チベットの風俗、自然、医療なども周到に調べあげ、ついに1901年(明治34年)、日本を出てから3年目に入国を果たし、チベット語の原典を蒐集しました。中国人の医者を探し、最高権力者であるダライ・ラマ13世にも拝謁しましたが、日本人であることがばれそうになり1年後に脱出します。慧海が著した「西藏(チベット)旅行記」は国際的にも貴重な文献になっています。

いまも心に響く  
名詩・名歌・名語録

二兎を追う者は一兎をも得ず

年齢というものには  
元来意味はありませんよ  
井上 靖

作家・井上靖(1907~1991)の「氷壁」にでてくる言葉。「若い生活をしている者は若い。老いた生活をしている者は老いている」と続きます。歳を意識しすぎることはよくないことであり、自分自身を老いますます追い込んでしまう。逆に、歳をとっても何事にも好奇心を燃やし向上心を持っていれば、いつまでも若々しくしていられるといえます。